

24 年度 氷見市教育総合センターだより 第 4 報

メールアドレス kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg00000416.htm>

「適応指導教室から連携を求めて」

適応指導教室指導員と通室する子どもの担任との情報交換を何とか円滑に進めたい。担当指導員のそんな思いから、管理職の承諾を得て、担任とのちょっとした情報交換をメールでも行うこととした。

メールだと、担任も指導員も自分のペースに合わせて見たり書いたり返信したりでき、日常的、かつ気軽に情報交換ができると考えたからだ。この方法で担任と相談員が相互連携を密にすることによって、4月以来二つの嬉しい連携の成果が現れた。

一つは、小学生のケース。なかなか登校できない児童に、担任と指導員がその子の実情を踏まえながらメールで連絡を取り合い、クラスの子に遊びに行ってもらおう方策をとることにした。するとどうだろう。母親から子どもが「友達が来てくれて嬉しかった」と言っていたと担任に連絡をいただくことができた。やってみるものである。

二つは、中学生のケース。適応指導教室に通室している生徒の、「中間テストを受けたけど結果はどうだったかな？」という心配そうな呟きを指導員が聞き、それを学年主任や担任にメールで伝えたところ、担任は早速結果を知らせてくれた。結果を教えてもらった生徒曰く、「もっと頑張ろう」と。嬉しい限りである。

二人とも、学校へはなかなか登校できない。しかし、一人は放課後などに時々学校へ行くようになり、一人は弱点教科の補強に努力している。

平成 23 年度 中央研修を終えて

ミドルリーダーとしてできること 氷見市立北部中学校 松本 美和

筑波での 27 日間に及ぶ研修会は、私にとって大変充実したものとなった。著名な講師の先生方による講義、そして全国から参加されている先生方との演習を通して、自分の視野を広め、見識を深めることができた。

多くのことを学んだ研修ではあったが、特に私の心に残っているのは「リスクマネジメント」の講義及び演習である。熱中症、地震といった事例を用いての演習では、法的には何が問題になってくるのか、事件や事故が起きないようにするにはどうすればよいのか、また、もし起きてしまった場合はどのような対応をすればよいのかを学んだ。

危機管理は、全教職員が常に意識すべきことであり、学校においては、組織化された学校危機対応チームの編制、明確な役割分担が求められる。そして、普段からの安全確認はもちろんのこと、教職員の意識の高揚、あらゆる場面を想定したマニュアルや体制づくり、訓練等が必要になってくる。自然災害や熱中症、いじめ等の問題が起きている昨今、今一度、学校危機管理体制の見直しを図る必要性を感じている。そこで、まずは勤務校において、事例を活用して対応の仕方を考える場を設定し、全教職員の危機管理意識を高めていきたいと思う。

「ミドルリーダーとしての資質、能力、知識を獲得し、それを学校や地域へ還元してほしい。」これは、研修初日の文部科学省初等中等教育局下間参事官の言葉である。今回の講義や演習で得た知識や手法を多くの先生方と共有し、地域や自校に広める努力をしていくことが、今の自分に課せられた役割だと考えている。

＝ 小中連携しじめ対策検討委員会 ＝

平成24年2月から20名の委員で4回にわたって検討を重ねた結果、以下のような内容が教育長へ答申されました。(答申文は、7月11日に電子媒体で、各学校に送付済)

1	学校は、いじめは人権に関わる重要な問題であることを十分に認識し、教職員はもちろんのこと、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー一等と連携し、全校体制で指導に当たるとともに、指導の一貫性を図る。	人権意識を高める指導の充実
2	学校は、学期に1回以上アンケート調査(子どもや保護者を対象)を実施し、子どもとの面談週間を設け、問題行動の早期発見・早期対応に努める。	保護者アンケートの作成と実施
3	小中学校が連携し、小中連絡会や小中連携シートを活用した子どもの実態把握や内面理解により、個に応じた指導や支援に努める。	小中連携シートの作成と実施
4	地域の行事や文化活動・スポーツ活動等を通して子どもの社会性やたくましく生きる力を育むとともに、学校・家庭・地域において子どもに役割をもたせることで自己有用感や自己肯定感を高める。	部活動チェックシートの作成と実施
5	家庭や地域、そして子どもの健全育成に関わる関係機関等と連携し、情報連携や行動連携を行うことによって、子どもを守り育てる体制を確立する。	市P連と連携した「親学び」の研修会の実施

本答申は、小中連携シート、保護者用アンケート等、学校現場ですぐに具体的な取組を進められるチェックシートを提案したところに特徴があります。各学校におかれては、本答申内容を教職員間で共通理解され、いじめの予防、早期発見、早期対応への取組をさらに充実させていただきますようお願いいたします。

小中連携教育(十三中学校区)

十三中学校区(湖南小学校と十三中学校)では、毎月1回英語活動で乗り入れ授業を行っています。

6年生 6月26日(火)

T1: 西教諭 T2: 幸塚教諭 ALT: ケイラ
 題材 Lesson3 I can swim. できることを紹介しよう



児童の感想

- ・何ができて、何ができないのかしっかり英語で言えるようになり、良かったです。
- ・分からないところをもう一度ゆっくり言ってくださって分かるようになり、楽しく学習できました。
- ・中学校の先生に英語を習ったことで、中学校へ行ってからの英語がとても楽しみになりました。

「よい・とてもよい」を合わせた%

区 分	5年(38人)	6年(35人)
楽しさ	100	94
分かる	95	86
教師の説明	92	89
興 味	97	91
中学校への期待	97	89

5年生 7月3日(火)

T1: 山口教諭 T2: 幸塚教諭 ALT: ケイラ
 題材 Lesson3 How many? いくつあるか数えよう

児童の感想

- ・中学校の先生は英語が上手で、自分もそうなるように英語をがんばろうと思いました。
- ・もっといろいろな英語を覚えたいです。中学校の英語がちょっと楽しみになりました。
- ・知らないことや分からないことがあったけど、また一緒に英語の勉強をしたいです。



授業では、担任、ALT、中学校教諭3人の連携のとれた指導の下、子どもたちが意欲的にペア活動やゲーム等に取り組んでいました。中学校での学習への期待感も高まっているようです。

「親学び」を通して、子育て支援

子どもとの接し方や親としての心構えなどを保護者に学んでもらおうと富山県教育委員会が平成20年3月に「親を学び伝える学習プログラム」、平成23年3月に追加プログラム、平成24年3月に発展プログラムを発行しています。それを親子活動の際に活用された実践事例を紹介します。

かかわり方を考えよう！

3 エピソード「子ども同士のけんかに親がかかわり」

氷見市立上庄小学校

6月に、1年生の親子活動で「親学び(親)・ドッジボール大会(子)・かき氷作り(親子)」を行った。「親学び」では、気軽に話せるように、また多様な意見が出るようにと、男女5名で、しかも上庄7地区の人が混じった班を意図的に構成し、育友会長さん外1名をファシリテーターに1時間話し合った。

始めに、各班で自己紹介をした後、県教委の「親を学び伝える学習プログラム」の中から上記のテーマについて、各自の考えを付箋紙に書き、その後意見交換をした。父親、母親それぞれの立場からの発言に、深く頷いている人や反対意見を述べる人等が見られ、熱心に討論された。初めは緊張していた保護者も次第に打ち解け、笑いが起こったり相談し合ったりする声が、あちこちで聞こえてきた。



最後に、付箋紙に書かれた様々な意見を班毎に大きな紙にはってまとめ発表し合った。

この間、子どもたちは、もう片方の保護者の世話で体育館でドッジボール大会を楽しんでいた。最後に、親子でかき氷を作って食べながら、親子同士で更に親睦を深めていた。



< 「親学び」についての保護者のアンケートより >

- 身近に起こりそうな題材だったため、想像しやすかった。
- いろいろなお父さんお母さんの意見を聞いて、自分と共感するところも多々あった。
- 親同士のコミュニケーションもとることができてよかった。
- 少し時間が少なかったなと感じた。

絆が生まれ元気がでる「親学び」

氷見市立海峰小学校

海峰小学校では、6月24日(日)1年生の保護者を対象に親子活動として、親学びを実施しました。



1 時間 親学び 午前9時30分～10時30分(児童は教室でDVD視聴)

親子レクリエーション 10時30分～11時30分

2 講師 松原 勝久 育成会会長

3 内容 3エピソード「子ども同士のけんかに親がかかわり」

(1) 子ども、母親それぞれの気持ちを考える。

(2) 対応を考え、その後の展開を予想する。

4 活動の様子と成果



各自が付箋紙に子どもや母親の思い、対応や展開を書き模造紙に貼った。その後、分類しながら共通点や違いについて話し合った。初めはぎこちなかった話合いも、講師の巧みな進行のおかげで保護者は次第に打ち解けていった。考えを発表する中で、子どもや母親の気持ちが多様であることを感じた。また、二人が仲良くなることを予想するうちに、子どもを信用し待つことの大切さを実感するようになった。

今後予想される課題について率直に話し合うことで、保護者同士の人間関係が良好になったように思う。また、子育てに不安をもっている保護者にとってはよいネットワークづくりにもなった。うれしそうに帰る親子の後ろ姿を見送り、親学びの有用性を再確認した一時であった。

図書紹介コーナー

月刊 学校教育相談 (ほんの森出版)

7月増刊号 ・ワークシートでブリーフセラピー

—学校ですぐ使える解決志向&外在化の発想と技法—



教育相談や学級経営、教職員研修会、スクールカウンセリング活動、保護者対応等学校のあらゆる場面に生かすことができる、ブリーフセラピーの入門書です。Part 1「1時間で理解するブリーフセラピーの基礎・基本」Part 2「やってみよう！ワークシートでブリーフセラピー」の2部構成になっています。Part 2では、すぐに使えるブリーフセラピーのワークシートが沢山紹介されています。※ワークシートのデータ CD-ROM付き。ブリーフセラピーで学校を元気にしませんか。

習熟プリントの活用で、学力アップ！ (清風堂書店)



下記のプリント集は、コピー印刷可能であり、朝活動や宿題等で復習や発展的学習に使えます。漢字・計算はもとより表現力、文章、ことば等の習熟や理科・社会の習熟プリントもあります。

このようなプリント集を効率的に活用し、子どもたちの学力アップを図ってみませんか。教育総合センターに一部取り揃えてありますので、来所の折にご覧ください。

算数習熟プリント

【学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会著】



新学習指導要領対応
学年別、初級(基礎)・中級(標準)・上級(上達)の段階別
なぞってできる例題があり、
書き込み練習ができます。

新・漢字習熟プリント

【学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会著】



画数の少ない漢字からスタート
なぞり書きができます。
前学年の復習、一文字練習付
確認・復習テスト付

表現力習熟プリント

【学力研文章表現部会著】



低・中・高学年別
自己紹介、手紙、案内、観察、
あらすじ文等15種類の文章
の練習ができます。

1ページに1作文お手本例文付で、やさしい文
から難しい文へと作文練習ができます。

理科習熟プリント

【理科を楽しくする会著】



新指導要領対応 学年別
単元内容を一目でわかる
「イメージマップ」、基本
的知識・理解を深める

「基本ワーク」、実力を身に付ける「まとめワーク」
で構成。重要語句などなぞり書きができます。